

根木内歴史公園 観察会

2017年1月16日（水）

参加6名 西澤

ガチガチに凍った水路に足をつっこんだりして氷の厚さを確かめながら、いつものコースを歩いて行くと散策路わきの草の露が日の光を受けてキラキラ光っています。立ち止まりじっと眺めていると光の色が緑とか赤に変化してとても綺麗でした。枯れたヨシの中からウグイスの声が盛んに聞こえるのですが、姿は見えません。冬枯れの草の中にヌカキビ、イノコズチ、ヒメジソなどの立ち枯れがみられます。ヤブミョウガもすでに枯れていますが、青い実はまだ残っていました。一方湿地ではハコベ、ヘビイチゴ、タネツケバナ、カラスノエンドウ、セリ、ムラサキケマンなどが緑の葉を茂らせて春を待っている様子。葉の大きなロゼットはハルジオンでしょう。日向にはヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリが小さな花をつけています。ホトケノザの花もみられました。

田んぼのあたりにムクドリが群がっています。どうやら落穂を拾っているようです。ほかにキジバト、ヒヨドリ、カラスは見られるのですが、他の鳥は今日はさっぱり、カルガモさえも見られません。晴れてはいるのに風が強く寒い朝、鳥たちはどこにいるのでしょうかね。

芝生広場に行くと陽が良く当たる一本の紅梅はもう咲き始めています。そして枝の高い場所にオオカマキリの卵を二つみつけました。ずいぶん高い場所に産み付けたカマキリの心理は如何に？

広場のコブシはどうしたわけか芽をあまりつけていませんでした。ロウバイは満開、良いおいで早春を感じることができました。出発地点にもどって上富士川の方へカワセミがとんだのを見たラッキーな人もいたので、皆であたりを見ていると川むこうの枯草の山にモズを発見。顔のようすからこれはモズコさんかな。最後にやっと出会えました。



↑ オオイヌノフグリ ヒメオドリコソウ→

